

背景・課題

新潟市は全国1位の水田耕地面積を有しており、有機栽培や化学農薬を低減した栽培など、環境負荷を低減した水稻栽培を推進するうえで、雑草管理の手間や労働力の増加が課題。

現状では、機械除草機等による『生えてしまった雑草を後から取り除く』除草体系が一般的だが、除草が間に合わずに収量や品質低下が生じるケースが多い。

そのため、発想を転換し、『雑草を生えにくくする』新たな雑草管理手法とともに、スマート農業技術を活用し省力化と環境負荷低減を両立することで、グリーンな栽培体系の取組面積を拡大させる。

成果目標と達成状況

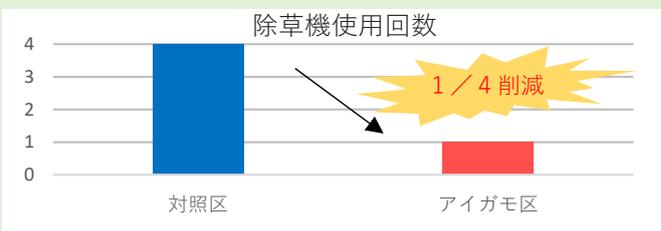
- 有機農業の取組拡大に向けた栽培体系を検討し、グリーンな栽培体系マニュアルに反映。
- 抑草効果のあるアイガモロボを活用することで、化学農薬の使用量を低減。また、除草機使用回数（雑草管理作業時間）を削減。

取組の成果

- 農業者や農業関係者向けの実演会を2回開催し、取組内容について広く周知を図った。
- アイガモロボの導入で除草機の使用回数が減り、雑草管理の労力削減につながる事例があった。



- ・5月16日及び6月17日に実演会を開催し、農業者やJA職員など約60名が参加。
- ・アイガモロボを使用しながら抑草のメカニズムや使用方法などを説明し、その後、実証に参加している農業者から参加者へ感想やコメントを伝えた。



- ・対象区では除草機を4回使用したが、アイガモ区ではアイガモロボの抑草効果等により1回の使用で済んだ。
- ・有機栽培や化学農薬を低減した栽培を拡大する上で課題となる雑草管理の労力削減につながった。

普及に向けた取組

アイガモロボは、適切な水位の確保や土質など使用条件によっては抑草効果が期待できることが分かった。一方、多年生雑草に対しては効果が劣る可能性が示唆されたので、従来からある除草技術とアイガモロボを組み合わせながらより効果的な雑草管理手法について検討を進めていく。その結果を踏まえながら、産地戦略やグリーンな栽培マニュアルを活用し、地域への普及に向けた情報発信を行っていく。



新潟市

構成員

新潟県、新潟市、井関農機(株)、ウォーターセル(株)、農業者

品目

水稻

栽培マニュアル・産地戦略

産地戦略及びグリーンな栽培マニュアルの策定について  
新潟市



<https://www.city.niigata.lg.jp/business/norinsuisan/nouringyo/nogyo-sesaku/nosei20230630.html>